

第16回「大学リレーセミナー」

(公財) 京都産業21・けいはんなオープンイノベーションセンター (KICK) では、入居企業に加えて、けいはんな学研都市に立地する研究機関や企業の方々、支援機関の方々にも参加していただき、研究内容や事業内容などの事例紹介、外部講師による話題提供など、相互交流の場づくりを進めています。

日時：2018年 7月25日(水) 18時~20時

場所：けいはんなオープンイノベーションセンター (KICK) 3階「会議室」

●第1部

「幹細胞を用いる研究と応用における生命倫理—iPS細胞を中心に—」

1998年に米国でヒトES細胞（胚性幹細胞：Embryonic Stem Cell）が樹立され、これを分化させた細胞を移植して難疾患を治療する再生医療への期待が高まった。しかし、ES細胞は「人の生命の萌芽」である受精卵（胚）を壊すという重大な倫理的課題があった。そこでES細胞に変わるものとしてiPS細胞が登場した。これは体細胞を初期化して得られる多能性幹細胞で、胚の破壊を回避でき、倫理問題をクリアしたといわれた。ここに日本発の再生医療実現への期待が一挙に高まって、2013年に再生医療安全確保法が成立、新しい夢の医療が始まった。

しかし、iPS細胞も倫理的問題をなお含んでいる。再生医療が期待通りに多くの難病患者を救うには、適正な形で倫理課題を乗り越えて、研究と臨床応用がすすめられる必要がある。倫理は科学の進歩を阻止するものではなく、人間の尊厳や人権を尊重しつつ、社会の理解と支持を得て、自由研究と応用を進めるためのルールである。ここでは、iPS細胞を中心に、自由に研究を進めるにはどのように倫理問題を考えればよいか、をお話しして、社会の視点から研究と応用の発展への礎としたい。

講師：位田 隆一 先生
滋賀大学 学長

●第2部

「バイオリソースとしてのiPS細胞とその利活用」

2006年にマウスで、2007年にヒトで初めて報告された人工多能性幹細胞（induced pluripotent stem cells:iPS細胞）の誕生は、世界に大きな衝撃を持って受け止められました。これは、全てのヒトの皮膚の細胞から胚性幹細胞と同じ能力を有する細胞を誘導できるという革新的な発見であったとともに、医学のフィールドにおける計り知れないインパクトが予測されたためです。すなわち、iPS細胞から、疾患で失われた細胞を作り出し、移植を行う再生医療の可能性とともに、難病の患者さんからiPS細胞を樹立し、さらにその患者さんの疾患になる細胞を作り出し、研究すれば病態の解明や、治療薬の元になる物質を見出す創薬研究ができる可能性が生まれました。

本セミナーでは、iPS細胞を用いた難病の病態解明・創薬研究の現状と、これまで理研BRCに蓄積されたバイオリソースとしてのiPS細胞を利活用する研究の今後について、これまでの我々の研究とともにご紹介させていただきます。

講師：井上 治久 先生
京都大学iPS細胞研究所、理化学研究所

いずれも、お話 45分程度、意見交換 10 数分を予定。

【定 員】 **40名**（申込が定員を超えた場合は抽選となります）

【参 加 費】 **500円**（当日申し受けます）

【申込締切】 **2018年 7月18日（水）** ※参加申し込みは裏面をご覧ください。

＜主催＞ 公益財団法人京都産業21 けいはんな支所 KICK事務局

E-mail kick@ki21.jp FAX 0774-66-7546

＜協力＞ けいはんなRC

参加申込書

- 下記に必要事項を記入して、FAXでお申込み下さい。
- E-mailでのお申込みの場合は、件名を「第16回大学リレーセミナー参加申込」として、以下の内容を記載してお申込み下さい。

E-mail : kick@ki21.jp FAX: 0774-66-7546

第16回「大学リレーセミナー」 2018年7月25日(水)開催

フリガナ お名前	
ご所属 (勤務先)	
部署・役職	
住所	
TEL	(FAX)
E-mail	

<公共交通機関をご利用の場合>

■ 京都から

- 「京都駅」→近鉄京都線「新祝園駅」→奈良交通バス「公園東通り」下車 (所要約50分)

■ 大阪から

- 「京橋駅」→JR学研都市線「祝園駅」→奈良交通バス「公園東通り」下車 (所要約70分)
- 「本町駅」→中央線・近鉄けいはんな線「学研奈良登美ヶ丘駅」→奈良交通バス「公園東通り」下車 (所要約60分)
- 「難波駅」→近鉄奈良線「生駒駅」→けいはんな線「学研奈良登美ヶ丘駅」→奈良交通バス「公園東通り」下車 (所要約60分)

